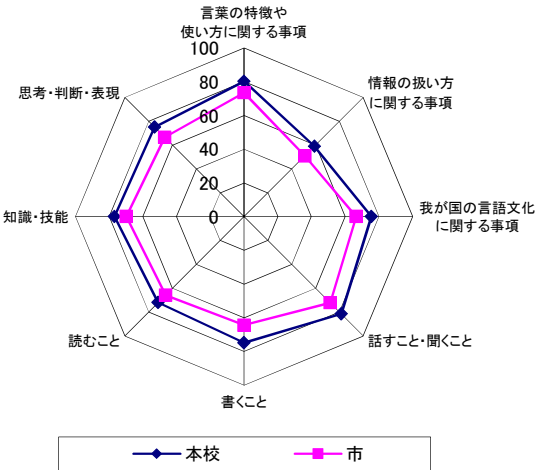


宇都宮市立戸祭小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.3	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	59.0	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	75.5	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	81.6	72.3	73.7
	書くこと	74.8	64.3	66.6
	読むこと	72.0	65.8	64.9
観点別	知識・技能	76.9	69.8	70.8
	思考・判断・表現	75.0	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

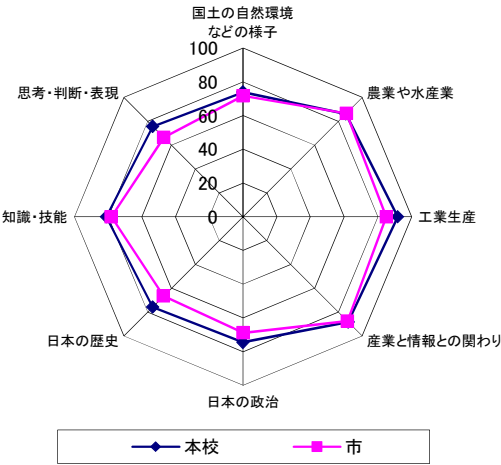
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	○漢字の読み・書きに関する設問は全て市の平均正答率を上回った。 特に送り仮名のつく訓読みは15.7ポイントと大きく上回った。 ○敬語について正しく理解し、正しく使っているかの設問も市の平均正答率を8.7ポイント上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字スキルを使ってポイントを押さえた上で、自主学習での漢字練習の励行やミニテスト、50問テストなどを通して確認することを継続する。また、より多くの熟語に触れさせることで生活の中で使えるようにさせていく。 ・敬語については、授業で学んだことを復習すると共に、場面に応じた正しい使い方が身に付くよう日頃から敬語を使う指導を心がける。
情報の扱い方 に関する事項	○情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する設問では、市平均正答率を6.7ポイント上回った。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く設問では、市平均正答率を9.3ポイント上回った。	・複数の資料から必要な情報を取り出す力は今後より多くの場面で求められる。国語に限らず、日常の多くの場面で情報との接し方に注目させていく。 また、その中で児童同士でその情報について議論する機会を丁寧に扱い、正しい判断ができるようにしていく。
我が国の言語文化 に関する事項	○語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解しているかに関する設問では、市の平均正答率を9ポイント上回った。	・今後も、文字の歴史を学ぶ社会科や書写などとも関連させながら、折に触れ、漢字や語句に関する話題を取り上げ、言語への関心を高めていく。
話すこと・聞くこと	○インタビューの内容を聞き取る設問では、全ての設問において市の平均正答率を上回った。 特に、意図に応じて質問を工夫する問題では11.3ポイント、話の内容を捉えて記述する問題では14.2ポイントと大きく市の平均を上回った。	・今後も、話を聞く際には、内容を整理して自分の考えと比較させながら聞くよう指導を続けていく。 ・普段の授業や児童会活動を通して、自分の考えを簡潔にまとめて表現する機会を増やしていく。
書くこと	○文章を書くことに関する設問では、全ての設問において、市の平均正答率を上回った。 特に、目的や意図に応じて、書き表し方を工夫する記述式の設問では、市の平均正答率を11.4ポイントと大きく上回った。 又、指定された長さで書くことは11.3ポイント、反論を予想して意見を書く問題では17.8ポイントと平均を大きく上回った。	・多年に渡る毎週末の日記指導や授業の振り返りを継続してきたことにより、普段から抵抗なく文章を書く力が伸びている。今後も条件作文や意見文を書く機会を丁寧に扱い、一人一人に応じた支援を行うことで更に書く力を高めていく。
読むこと	○読むことに関する設問では、全ての設問において、市の平均正答率を上回った。 特に、物語文の内容を読み取る問題の中でも、描写を基に心情を捉える問題では8.8ポイントと平均を上回った。 また、説明文の内容を捉える問題の中でも、記述を基に内容を捉える問題では8.5ポイント平均を大きく上回った。	・引き続き、朝の読書の時間や図書委員会の企画等を活用して、児童が読む楽しさを味わえるよう指導していく。 ・物語文では、描写から心情を読み取る際に、児童同士の捉え方を交流させ、より深い理解につなげたい。 ・説明文では、正しく内容を理解できるよう、段落の役割や文章構成に着目して読む等の説明文読解のスキルを身に付けさせていく。

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	73.8	71.6	69.6
	農業や水産業	86.2	86.7	83.7
	工業生産	91.8	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	88.3	87.7	77.4
	日本の政治	74.5	68.9	71.7
	日本の歴史	75.8	66.7	66.3
観点別	知識・技能	81.1	78.0	76.7
	思考・判断・表現	75.7	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

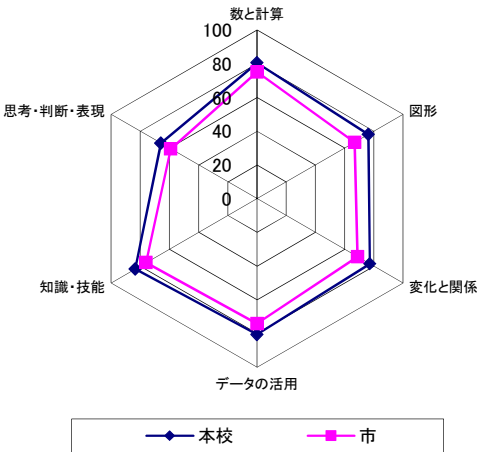
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○わたしたちの生活と環境の設問では市の平均を上回った。 ●世界の中の国土の設問では、オーストラリアの位置と国旗、日本の主な地形の名前を問う設問で市の平均を若干下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図帳や地球儀等を用いて、日本の地名や海洋名等の知識を習得するとともに、日本とつながりの深い国については、正しく国名や国旗を理解し、外国とのつながりに関心がもてるように指導していく。
農業や水産業	○日本の水産物の流通の工夫について、資料を読み取る設問では、93.6%と高い正答率で、市の平均正答率を5.4ポイント上回った。資料を読み取る力は付いているといえる。 ●米の生産の工程について理解しているかの設問では、市の平均正答率を7.1ポイント下回った。	・資料から判断し、読み取る力は定着している。社会的な思考力や表現力を一層高めるために、授業の中で、資料から読み取ったことを文章にまとめたり、自分なりの見解を表現したりする活動を増やしていきたい。
工業生産	○自動車の製造工程を問う設問、工業製品の分類の理解を問う設問、日本の工業の特色について資料をもとに表現する設問のいずれも、市の平均正答率を上回っており、よく理解できている。	・写真資料やグラフ、表などの資料を、比較・関連・統合させながら表現する学習を繰り返し行っていく。 ・一人一台端末を用いて、児童が興味をもって学習できるような教材の工夫に励んでいく。
産業と情報との関わり	○さまざまなメディアの特徴についての理解を問う設問は、97.9%という高い正答率であり、情報リテラシーへの理解やメディアへの関心が高いことが分かる。 ●情報の発信と受信の注意点について考える設問は、市の平均正答率を0.4ポイント下回った。	・調べ学習を行う際、インターネットを使用する上で必要となる情報リテラシーについて、繰り返し指導を行っていく。
日本の政治	○天皇の地位を問う設問、国民の義務を問う設問、内閣の働きについての理解を問う設問、国民と国会と内閣の関係についての理解をもとに図を読み取る設問のいずれも、市の平均正答率を上回っており、よく理解できている。	・継続して時事問題や政治について学習に取り上げていくことで、社会に関する児童の興味・関心を高めていくようにする。 ・政治に最近のニュースを話題にするなど、身近な具体例を交えながら関心を高める指導を行うようにする。
日本の歴史	○縄文時代から平安時代、鎌倉時代から室町時代に関するいずれの設問においても、市の平均正答率を上回っている。 ●江戸幕府の鎖国の窓口に関する設問では、市の平均正答率より5.4ポイント下回っており、課題が見られる。	・各時代における政治や文化について時代背景への理解を深めたり、現在との繋がりを考えたりするような学習活動を取り入れ、歴史に親しみをもてるようにする。 ・資料集等にある多彩な資料や歴史上のエピソードを紹介したり、一人一台端末を使って動画の説明を視聴したりするなど、歴史への興味・関心を高めるようにする。

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.5	75.1	75.8
	図形	76.2	66.8	68.3
	変化と関係	77.3	68.8	65.0
	データの活用	80.5	74.1	63.6
観点別	知識・技能	83.5	76.1	75.8
	思考・判断・表現	65.8	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

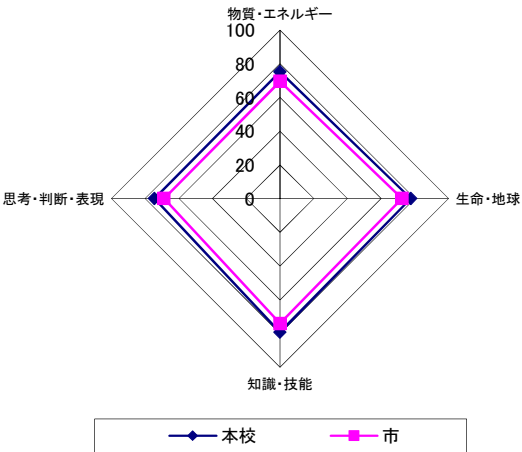
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率が80.5%と市の平均正答率を5.4ポイント上回っており、小数や分数の基本的な計算方法が定着しているといえる。 ○約分のある分数の乗法、除法については、どちらの問題も平均正答率が90%を上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・家庭学習において、ドリル等を使った反復練習を積極的に行い、どの分野においても幅広く理解を深められるようにする。 ・基本的な計算問題だけでなく、応用問題や文章問題等にも取り組む時間を確保し、知識の定着を図る。 ・小数の計算においては、他の領域でもでてくるため、定期的に復習を行い、定着できるようにする。
図形	○平均正答率が76.2%と市の平均正答率を9.4ポイント上回った。特に、面積や体積、角度を求める問題への理解度が高く、知識が定着しているといえる。 ●合同な図形の作図では、市の平均正答率を2.1ポイント下回った。	・それぞれの図形や立体の性質を比較してまとめる活動を行い、定義についてさらに定着できるようにする。 ・6年生での「拡大図と縮図」の単元において、作図の仕方を学習する際に、それにつながる内容として「合同な図形」を復習し、作図の仕方の定着を図る。
変化と関係	○平均正答率が77.3%と市の平均正答率を8.5ポイント上回っており、単位量あたりの大きさや速さに関する問題への理解度が高い。 ○割合を求める問題では、市の平均正答率を17.5ポイントと大きく上回った。	・割合や単位量あたりの大きさ・速さは5年生の学習内容であるため、繰り返し復習の機会を設ける。 ・割合は、6年生での「データの活用」においても使われるため、その際に復習ができるようにする。
データの活用	○平均正答率が80.5%と市の平均正答率を6.4ポイント上回った。 ○データを読み取ったり、平均をもとに値を求めたりする問題への理解度が高く、どの問題でも市の平均正答率を上回っている。	・6年間で学習したグラフの特徴を整理したり、目的に合わせてグラフを選んだりする活動を取り入れ、グラフから適切に情報を読み取れるようにする。

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	75.2	69.5	65.2
	生命・地球	77.6	72.3	70.1
観点別	知識・技能	79.2	74.0	70.7
	思考・判断・表現	74.5	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○「ふりこのきまり」に関する問題で、ふりこの1往復の動きを答える項目では、市の正答率を6.4ポイント上回った。 ○「物のとけ方」に関する問題で、グラフを読み、食塩とミョウバンの水へのとけ方について指摘する項目では、市の平均を7.1ポイント上回った。 ●「水溶液の性質」に関する問題で、鉄やアルミニウムは、うすい塩酸にとけることについての項目では、市の正答率を8.1ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・各単元の実験の際には、実験結果の考察やまとめを通して、科学的な思考力を養うことができるようにする。 ・他の班や教科書と同じ結果にならなかった場合、その理由を考える活動も取り入れ、考察力を養う。 ・図やイラスト、動画コンテンツ、3Dモデルやシミュレーションソフトなど視覚的な教材を活用して、目に見えない現象を可視化することで理解を深めていく。
生命・地球	○「流れる水のはたらき」に関する問題で、浸食について答える項目では、市の正答率を9.1ポイント上回った。 ●「植物のつくりとはたらき」に関する問題で、根の断面のようすについて答える項目では、市の正答率を1.7ポイント下回った。 ●「月と太陽」に関する問題で、月の形を推測し答える項目で、市の正答率は32.8%と低かったがさらに9.4ポイント下回った。	・根の断面の構造や各部の役割について、観察や実験の際にICT機器や動画資料等を積極的に活用し、理解を深めることができるようにする。 ・月の満ち欠けの仕組みや、月の形と太陽の位置関係について、模型を用いた実験や図解などを活用して視覚的に理解を深めることができるようにする。

宇都宮市立戸祭小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自ら考え、伝え合い、理解し実践する児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・算数を中心に、既習事項を生かして考える児童、主体的に課題を追究し学び合う児童を目指し、児童が納得と達成感を得る授業の展開・工夫をしたり、教師のコーディネート力を磨いたりする研究を重ねている。 ・授業の展開においては、「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識し、今年度は、特に「じっくり」において、自分の考えをもち、学び合いを通して考えを深めたり、「すっきり」授業を終えて、次につなげるための振り返りの方法などについて研究してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教科で市の平均よりも高く、各領域においても、ほぼ全てで市の平均より高かった。 ・「授業の始まりに席についている」「話を最後まできちんと聞いている」「授業がわかる」「わかるとうれしい」の肯定割合が約9割を超えており、落ち着いた態度で学習に取り組み、成果を上げていることがうかがえる。 ・「勉強が好き」「話し合いに進んで参加している」では、全体の肯定割合は約8割程度で、学年が上がるほど肯定割合が低くなる傾向であった。また、「根拠を上げながら話すことができる」は、学年間にばらつきがあり、学校全体では約7割となっている。
・読書時間の確保と習慣化の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書や読み聞かせによる本に触れる場を引き続き設けることや、学校図書館司書や委員会による本に親しむ機会の充実を図っている。 ・「チャレンジブック」を設定したり、週末の親子読書の機会を設けたりするなど読書を推奨している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いろいろな本を読むのは楽しい」では、学校全体で肯定割合が約8割であった。「ふだんから『不思議な』『なぜだろう』と感じることもある」では、学校全体では約7割であるが、学年が上がるほど肯定割合が高くなり9割を超えている学年もある。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・全ての教科で市の平均より高い。特に、国語、算数ではすべての領域で6ポイント以上高い。また、家庭学習時間を見ると、82%が毎日1時間以上取り組んでいる。しかし、「勉強が好き」「話し合いに進んで参加している」では、学年が上がるほど、肯定割合が低くなる。また、「根拠を上げながら話すことができる」は、学年間にばらつきがあり、全体でも約7割であった。
- ・R6には「伝え方ものさし」という、相手に分かりやすく伝える手立ての資料を作成し、全校で指導しているところである。引き続き、授業において、自分の考えをもつための時間を確保し、合わせてその根拠となるものも明示し、相手に自分の考えをつたえられるよう指導していく。また、自分が何をめあてに取り組んでいるか、何を分かっているかが分かりやすくなるような板書計画や授業展開を研究し、「分かる授業」を目指していく。
- ・家庭学習についても、強化週間等を設けるなど引き続き指導をしていく。